

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293000038		
法人名	株式会社オールプロジェクト		
事業所名	グループホームふくふく		
所在地	千葉県君津市貞元495番地		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成23年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の笑顔を大切に、その人らしい生活が送れる様自立支援に心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな緑が広がる環境の中に、「グループホーム ふくふく」があり、1階のウッドデッキや2階の窓からは、豊かな自然の景色が広がっている。併設施設には、デイサービスがあり、レクリエーション参加・合同行事・施設設備の利用等、様々な連携が図られており、入居者の生活の活性化が図られている。施設方針として、残存機能を活かした生活・生活ペースの継続を目指しており、入居者の希望や身体状況を常に確認しながら、その人に合った支援方法を検討している。また、施設に関わる人の「笑顔」を大切にしており、常に笑い声が響く、明るい施設づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の全体ミーティング時に社内の理念・基本方針の読みあわせを行っている。	「住み慣れた家での生活・地域社会への参加・医療や福祉との連携」等を主眼とした法人理念を掲げている。理念においては、事業所内に掲示すると共に、会議や研修時に職員への確認を行っている。	現在は、法人理念を基に施設サービスを展開しているが、今後は、施設独自の理念を作成することにより、取り組みや方針が職員・入居者・家族・地域住民等、様々な人達に理解を深めていけるよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入しておらず、取り組みには至っていない。	地域住民の見学・訪問を随時受け付けていると共に、職員が地域の清掃活動に参加する等、地域への理解促進に努めている。また、法人にて行われる「つばさ祭り」に地域住民を招待し、交流を深めている。その他にも、高校生の職場体験受け入れや研修会の開催等、地域貢献にも努めている。	施設として、更なる地域との交流及び自治会の加入に取り組んでるが、今後も継続して地域との交流を企画・実践する事により、地域との協力体制の構築・地域に根差した施設運営に取り組んで頂くことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1度、職場体験の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ホームの状況や活動内容等を報告し、意見を頂くと共に、頂いた意見を基にサービスの向上に努めている。	自治会長・民生委員・市役所職員・入居者・家族等を構成員として、3ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。また、今後は、2か月に1回の開催を目指しており、地域との交流の場になるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、ホームの実情をお伝えしながら意見交換を行い、サービスの向上に取り組んでいる。	日頃から業務における相談や報告を随時行い、氏との連携を図っている。パンフレットを市役所に設置してもらおう等、協力も得ている。また、法人関係者が市の研修会に講師として参加する等、相互の協力体制が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や全体ミーティングなどを通じ、身体拘束の理解を深めている段階である。廊下と玄関の境はまだ施錠をしている常態である。	身体拘束排除・虐待防止における理念・マニュアルを整備すると共に、研修を実施し、職員への理解を深めている。ユニット入口の扉には施錠を行っており、入居者の安全を確保している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や全体ミーティングなどを通じ、虐待防止に理解を深め、実践している。		

【千葉県】グループホーム ふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は知識として持っているが、それを職員全体に周知するに至っていない。今後、共に勉強する機会を持ち、必要なお客様に支援できるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の説明を行い、その場で不安や疑問点を尋ねてお答えし、ご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社・ホーム共に窓口を設けている。管理者が不在であったとしても、全職員が対応し、管理者に報告することを徹底している。	家族の面会時や電話連絡時に直接意見を確認する他、アンケート調査を行い、より多くの意見・要望等を確認できるよう工夫している。家族とのコミュニケーションを大切に、より意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。	家族から説明が不足している旨の意見が多く挙がっている。今後は、意見に対しての改善後・対応の検討後にきちんと説明をし、納得して頂けるよう取り組んで頂くことを望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体ミーティングを行い、意見を言える機会を設けている。	定期的に会議を開催しており、職員からの意見や提案を確認している。また、管理者が個別に話をする場を設け、一人ひとりの意見や思いを確認している。また、内部研修が計画されており、適切なスキルアップができるよう体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	こまめにホームに来訪し、職員個々の意見を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修を始め、社内研修等で育成を図ると共に、現場での取り組みを重視している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設の際に市内の同業者に挨拶に行き、交流するきっかけ作りを行ったり、賀詞交換会に参加し近隣での交流の機会を作っている。		

【千葉県】グループホーム ふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学や自宅訪問を行い、本人から話を聞くなどして信頼関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や自宅訪問時等にご家庭での過ごし方を伺うと共に不安や要望を聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況を把握し、出来る限り本人に合った支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事やレクリエーションを一緒に行うことで、共に楽しんだり、職員が教えていただく機会を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の情報を共有できるよう、電話や手紙を使い状況報告を行い、その都度相談し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会や電話でのやり取りが続けられるよう支援している。	ユニット間や併設のデイサービスとの交流が日頃から図られていると共に、地域のサークル活動に参加することも可能となっており、馴染みの人との関係継続及び新たな関係の構築を支援している。また、家族との外出・外泊が可能となっている他、親睦会を開催し、家族との関係継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握し互いに支えあえるよう、職員が間に入るなどして良い関係が持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とする利用者や家族に対してはこれまでの付き合いを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の意見を聞いたり、意向を汲み取り、本人主体の援助ができるよう努力している。	入居時に本人・家族から意向・身体状況・生活歴等を確認し、記録している。契約後は、「介護サマリー」を作成し、職員全員が常に新しい情報を確認できるよう工夫していると共に、定期的に会議を開催し、情報の共有・本人本位の検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅訪問し、聞き取りを行い、また、ご家族にもこれまでの暮らしについてご記入を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や送付を行い、また、ミーティング等で意見を出し合い、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に個々のカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族・職員で話し合いを行い、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。介護計画には、自立支援を目指した内容を入れ、本人の希望が必ず入るよう検討しながら作成するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し、送付を確実に行情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的なニーズであっても、可能な限り対応できるよう、柔軟なサービスに心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の子育て支援センターへは時々訪れ、楽しんでいるが、地域との協働には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に添ったかかりつけ医があり、定期的な往診を行うと共に、突発的な場合でもスムーズに対応できるよう支援している。	希望のかかりつけ医への受信が可能となっていると共に、受診の際には、法人内の介護タクシーを利用することも可能となっており、身体状況に合わせた柔軟な支援が行われている。また、定期的に内科医・歯科医の往診が行われており、適切な医療支援が行われている。その他にも、常勤看護師や併設デイサービスの看護師と連携を図りながら、適切な健康管理が行われている。	

【千葉県】グループホーム ふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師が配置されている為、利用者のちょっとした変化に直ぐに対応が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に一緒に伺い、情報交換を行っている。また、退院時には看護サマリーをいただき、入院時の状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の思いを尊重し、可能な限りの支援を行い、必要に応じ、かかりつけ医も含めた話し合いの下方針を決定するよう努力していく。	本人・家族の意向を確認しながら、検討を重ね、施設として出来る限りの支援を行っている。また、必要に応じて、医療機関や他サービスの移行を円滑に行えるよう協力体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルがあり、全職員が周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練にまで至っておらず、今年度の課題となっている。	施設内には、火災報知機・通報機・スプリンクラー等の設備が設置され、対策が講じられている。また、避難経路は複数確保されており、入居者の安全確保が図られている。消防署立会いのもと、年2回、併設のデイサービスと合同で避難訓練を行っている。	現在は、併設のデイサービスに合わせて、昼想定での訓練を行っている。今後は、夜間や地震等の様々な想定で訓練を行い、より万全な避難方法を身に付けて頂くことを期待します。また、継続して地域へ協力の呼びかけを行うことにより、災害時・緊急時に相互で協力し合う関係を構築して頂くことを望みます。

【千葉県】グループホーム ふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のかけ方にも配慮し、プライバシーの確保(特に入浴や排泄の際)にも気を配っている。	接遇においては、マニュアルを整備すると共に、研修を行い、全職員に指導している。接遇における施設方針を事務所内に掲示し、業務内でその都度指導しながら入居者の尊厳に配慮したサービスの提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言動や表情から思いを汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ、希望に添った支援が出来るよう日々努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意思を尊重しているが、意思の表現が困難な場合には必要に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には野菜を洗ったり切ったりしていただいている。また、準備や後片付けと一緒にいたり、職員と一緒に毎食食事を摂っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備・片付け・調理等を共同で行っている。献立においては、管理栄養士作成の献立をベースに職員がアレンジし、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。また、外食会の実施・手作りおやつ等の食の楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がメニューを作成し、それに添って調理している。また、その方に合わせた形態で摂取しやすい工夫を行っている。毎食、摂取量のチェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにて口腔ケアを促し、必要に応じて介助を行っている。		

【千葉県】グループホーム ふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて声かけやトイレ誘導を行い、極力トイレでの排泄を目指している。排泄のパターンを把握できるよう、排泄表を用いている。	排泄チェックリストを作成しており、個々の排泄パターンを把握しながら、自立に向けた排泄支援を行っている。夜間においては、トイレ誘導・声かけを行いながら、適切な支援を行っている。また、必要に応じて医師や看護師と連携を図り、排便のコントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い、必要に応じてかかりつけ医に相談し、その方に合った方法で便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が基本となっているが、その方の希望に応じ行っている。入浴表をつけ、拒否が多い人でも極力間が開きすぎないよう対応している。	入浴は毎日実施しており、希望に応じて回数等、柔軟に支援している。また、必要に応じて清拭・部分浴・シャワー浴を実施し、入居者の清潔保持に努めている。施設内には、リフト浴槽が設置されており、入居者の身体状況に合わせた入浴支援が可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンや身体状況に合わせ、本人のペースで休息が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師によるアドバイスや指導を受けている。また、内服薬の一覧表を個々に作成し、全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に役割や楽しみがあり、気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩は天気の良い日は行っている。また、季節ごとに外出行事を行い、ホームを離れ気分転換を行っている。	希望や天候に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出活動を支援していると共に、庭やウッドデッキに出て気軽に外の空気に触れられるようになっている。また、定期的に外出会を実施しており、戸外での楽しみを支援している。その他にも、併設のデイサービス・子育て支援センターとの交流が行われており、外部の人との触れ合いが入居者の生活の活性化につながっている。	

【千葉県】グループホーム ふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、金銭管理は事務所で 行っているが、希望に応じて使えるよう支援 している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	希望に添って行えるよう随時支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り付け等は特に行っていないが、音や 光、温度や湿度に配慮し、快適に過ぎて頂 けるよう努めている。	施設内は、バリアフリーとなっており、十分な介助ス ペースも確保され、入居者の安全面に配慮してい る。リビングには、テーブル・ソファ・和室スペース が設置されており、入居者が思い思いにくつろぐこ とが可能となっている。1階には、ウッドデッキが設置 されており、気軽に外の空気を楽しめるようになってい る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	居室・和室、ソファ・ウッドデッキなど自由 に利用できるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	家具類は持ち込み自由で、必要に応じて購 入したり家族に持って来て頂いている。	入居者の希望に応じて、馴染みの物を持ち込むこ とが可能となっており、安心して生活できるよう配慮 している。また、布団やポータブルトイレの使用も可 能となっており、入居者の生活歴に合わせた居室作 りがなされている。各居室に収納ダンス・鍵・エアコン ・換気扇が設置されており、快適に生活できるよう配 慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	「できること」「わかること」を把握し、安全で より自立した生活が送れる様、支援してい る。		